

エゾベニヒツジグサ

Nymphaea tetragona var. *erythrostigmatica*

スイレン科



エゾベニヒツジグサ

名前の由来

ヒツジグサの仲間は午後2時ころ(未の刻)に花が最も開くことから名付けられた。北海道の北部と東部に生育し、雌しべの柱頭やそのまわりの雄しべが黒紫色になるため「エゾ」「ベニ」の名が付いた。

漢字名：蝦夷紅水草

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ

特定種

国レッドリスト (2007) : 絶滅危惧Ⅱ類 (Vu)

北海道レッドデータ : 希少種 (R)

形態的特徴

根は池底の地中、茎は水中を伸びて葉を水面に浮かべる浮葉植物。根は池底の土の中を太く短く横にはう。水面に浮かぶ葉(浮葉)は長さ5~15cmで、基部が深く切れ込む。切れ込んだ部分は左右が重なったり、広がったりと変異に富む。葉の裏面は赤紫色をしている。水中にも葉があり(沈水葉)、浮葉に比べてより丸みのある形である。花は水中

から伸びた茎の先にひとつつき、直径3~6cmで白い花びらがたくさんある。花の中心の雌しべとそのまわりの雄しべは鮮やかな黒紫色で、その外側の雄しべは黄色。雌しべの先端は放射状に分岐するためたくさんあるように見えるが、数としてはひとつ。花後、花のついていた茎はらせん状によれて縮み、水中で結実する。果実のつけ根は正方形。

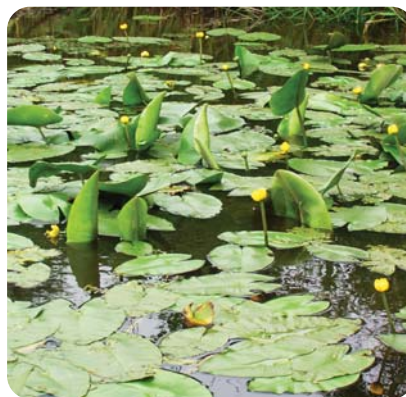
類似種と見分け方

ヒツジグサ。花のないときはコウホネ、ネムロコウホネ。ヒツジグサの花は中心部も黄色、その他の特徴は同じ。したがって、花がなければ見分けることができないが、道東と道北では大半がエゾベニヒツジグサである。コウホネ、ネムロコウホネとは葉が似る。花がない場合は、葉の大きさと葉脈の伸び方に注目すると良い。エゾベニヒツジグサの葉は幅、長さとも5~15cm程度で、コウホネに

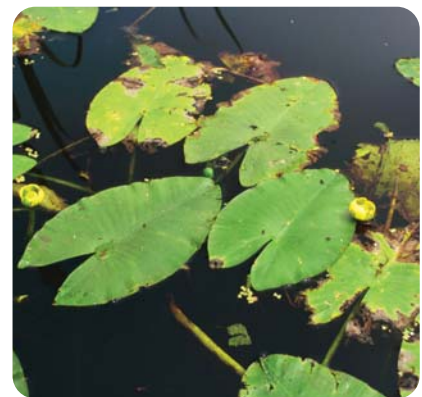
比べたら小さい。形状はコウホネやネムロコウホネより丸みがあり、葉の切れ込みはより深い。葉脈は、コウホネやネムロコウホネでは葉の中心を伸びる脈から左右に出る印象が強いのにに対し、エゾベニヒツジグサでは葉の基部から放射状に出る印象が強い。また、エゾベニヒツジグサでは葉の基部から放射状に出る葉脈に沿って色が淡くなる場合が多い。



エゾベニヒツジグサ。葉は切れ込みが深く、葉脈は基部から放射状



類似種のコウホネ。葉が水面から突き出すが、深い場所では水面に浮くものもある



類似種のカウホネ。葉脈は中心を伸びる脈から左右にでる

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期				■								
結実期					■							

生育環境・分布

湖沼や池に生育する。

分布：国外分布は、基本種ヒツジグサはヨーロッパ、東アジア、インド。変種エゾベニヒツジグサは国内のみと思われるが、詳細は不明。

国内分布は、北海道のみ。

道内分布は、主に道東、道北。

十勝地方では、湖沼や池に生育している。

生活史

開花時期：7～8月

開花までの年数：不明

寿命：多年草

他生物との関わり

エゾベニヒツジグサのような水草は、トンボや底生動物、魚類など水域に生息する動物の産卵場所や隠れ場所となる。

キタイトトンボやルリイトトンボなどのイトトンボ類は、本種のような浮葉植物や沈水植物の組織内に産卵する。

興味深い話

■果実は水のなかで熟する。果実にはだ円形の小さな種子がたくさんでき、種子は空気をふくんだ皮にすっぽり包まれている。果実が水底で裂けると、種子は浮かび上がって水面をただようか、水鳥にくっついて運ばれる。種子の外側の皮が腐ると、種子は運ばれた場所で水底に沈み、発芽を待つ。種子は翌年から散発的に発芽するが、貯蔵した種子では10年後でも発芽したとの例がある。同じスイレンの仲間である一年草のオニバスでは、池を改修したら約50年ぶりにオニバスが出現したとの事例があり、少なくとも数十年は種子（休眠状態）で生存できると推定されている。

■中国名は睡蓮または子午蓮という。日本では睡蓮は、スイレンのなかま約40種の総称として用いられる。スイレンは、花が夜眠るように閉じることから名付けられたものだが、エジプト原産のスイレンでは夜に咲く種類もある。

■エゾベニヒツジグサの開花は2～3日続き、1日目に雌しべが成熟、2日目に雄しべが成熟して花粉を出す。このように、雌しべと雄しべの成熟する期間がずれているのは、自分の花粉で実をつけるのを避けるためのしくみである。

■エゾベニヒツジグサの花は、上品で清楚な香りがする。



エゾベニヒツジグサの花。中心が黒紫色。良い香りがする。



エゾベニヒツジグサ。群生している様子。

配慮事項

エゾベニヒツジグサが安定して生育するためには水深50～100cm程度の環境が必要である。水質的には窒素やリン酸が少ない腐植栄養または貧～中栄養の水域に適している。エゾベニヒツジグサは日本や北海道で絶滅のおそれのある

種に指定されている。エゾベニヒツジグサが生育できるような水域は年々減少している。

エゾベニヒツジグサが生育するような環境は、トンボ類や底生動物、魚類にとっても重要な生息場所である。

参考文献

- 「北海道植物図譜」 滝田謙譲 自費出版 2001
- 「日本水草図鑑」 角野康郎 文一総合出版1994
- 「アレコレ知りたいシリーズ4 見つけたい楽しみたい野の植物」 近田文弘・清水建美 旺文社 2000
- 「ため池の自然—生き物たちと風景」 浜島繁隆・土山ふみ・近藤

- 繁生・益田芳樹 信山社サイテック 2001
- 「原色日本トンボ幼虫・成虫大図鑑」 杉村光俊・石田昇三・小島圭三・石田勝義・青木典司 北海道大学図書刊行会 1999
- 『植物雑学事典』 (岡山理科大学 植物生態研究室) <http://had0.big.ous.ac.jp/~hada/plantsdic/zatsugakujiten.htm>

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類
ワシ・タカ